

エスペランティスト柳田國男

後藤 齊

仙台エスペラント会 ザメンホフ祭

2011-12-10

概要

- 柳田國男は、1920年代にエスペラントの実践と宣伝に熱心に関わり、エスペラントを通して言語や国際交流に関わる多くの体験をした。この体験が彼の学問・思想に及ぼした影響については、これまで十分に考察されていない。
- エスペラントを考慮に入れることによって、柳田の人間関係についての理解を一步進めることができるであろう。

目次

- 1. はじめに
- 2. 1924年4月16日仙台講話
- 3. 柳田のエスペラント活動
- 4. 柳田をとりまくエスペランティストたち
- 5. 終わりに

1. はじめに

『河北新報』1924(大正13)年4月17日

時局問題講演

朝日新聞主催の時局問題講演会は昨十六日午後四時より西公園公會堂において開催せられたが聴衆二千餘名立錫の餘地なき盛況を呈した先づ小川島同社支局長開會の挨拶を述べ次いで法學博士吉村作造氏「選挙と代表」と題し前貸族院書記官長柳田國男氏「政治の青年化」前滋瀨民政長官法學博士下村宏氏は「刻下の政局に面して」と題し何れも簡樸最も適切なる講演を試み聴衆に多大の感動を興へ七時閉會を告げたたほ下村・柳田本野三氏の市内官民合同歓迎會は同七時半より東一精養軒で開かれたが參會者三百名これまた盛況であつた

柳田氏の講話

仙臺エスベランチストは昨晩八時から柳田國男氏を内ヶ崎コーヒー店に招待歐洲に於けるエスベランチストの普及状況に關する氏の講話を聞いた

1. はじめに

それからもう一つ、エスペラントについて帰国しましたね。トランプや切手でないときには、夕食後みんなにエスペラントを教えてくれるんです。めいめい単語帳をつくれといってね。単語だけ教えてくれるんです。文法などはあとになって自分で勉強しました。……

大正十三年ごろで、私の小学生のころです。

柳田為正「父を語る」

1. はじめに

柳田家家族写真

1926



朝日新聞論説委員時代の家族 牛込加賀町にて 左より妻孝, 千津, 千枝, 國男, 三穂, 三千, 養父直平, 為正, 養母琴 (大正15年)

2. 1924年4月16日仙台講話

La Revuo Orienta

1924.6

(日本エスペラント学会の月刊
機関誌 以下、ROと略す)

◎SENDAI.—*Fondiĝo de Sendai Esp. Federacio.* Por la plivasta verdigo de la „Urbo de Arbaro“ kaj por prepari la kongreson, oni kuniĝis sub la pli forta organizo de S.E. F., ĉe la Tut-urba Kong. de 20 feb., komitato por la kongreso elektiĝis kaj vigle laboras. Dume regula monata kunsido de la dua sabato kaj kunvenoj ĉe diversaj samideanoj konstante okazadas. Ĉio iras tre bone, kvankam ni perdis fervorajn S-rojn Inoue, Joŝikaŭa, kaj Nakajama.—16an de Aprilo, ni havis la plezuron bonvenigi S-ron Janagida, eksoficisto en Sekretariejo de Ligo de Nacioj, al kies parolado aŭskultis ĉ. 20 p., inter kiuj sin trovis Cuĉii-Bansui, fama peeto, profesoroj kaj ĵurnalistoj.—Kursojn de Oomoto-

2. 1924年4月16日仙台講話

RO 1924.2

Jaro V

N-ro 2



Februaro

1924

LA REVUO ORIENTA

LABORINTOJ DE TIU ĈI NUMERO: S. ŜINDO KAJ J. OKAMOTO

LA PAROLADO DE S-ro K. JANAGIDA.

La 16an de Decembro, je la okazo de la Zamenhof-nasko, Tokiaj Samideanoj havis la feliĉon aŭskulti al S-ro Kunio Janagida, eks-ĉefsekretario de la Supra Domo, pri nia movado ĉe Ligo de Nacioj, en kies sekretariejo li servis kiel reprezentanto de Japanujo. Lia observado plej objektiva, senfanatika (iom pesimista), forte impresis sur la ĉeestantaron, kiu konsistis el la plej agemaj batalantoj pacaĵ en kaj ĉirkaŭ la ĉefurbo.

IIIa ĝenerala kunsido. Tiam kelkaj el gazetoj jam fanatike triumfis pri la tre baldaŭ venkota batalo. Plue la eleganta sukceso de Ĝeneva Konferenco de „Esp. en Edukado” ravis samideanojn songi la perfektan certecon de nia sukceso ĉe Ligo de Nacioj. Ili laboregis energie efektivi la songon kaj helpis la sekretariejon por prepari la raporton, kiu ja estas tiel komplete, kiel ĉiu legito egale konstatas. Kaj, ĉu bone aŭ ĉu malbone, la stilo estis tiel alloga kaj favora al nia afero, ke en la ĝenerala kunsido iu suspektema delegito insistis rifuzi ĝin opiniante, ke

2. 1924年4月16日仙台講話

RO 1924.5

94

LA REVUO ORIENTA

[6]

LA DEKDUA

En la Urbo Sendai.

[Tago Unua] 27. Julio, dimanĉo:

Je la 12½-a horo: Malferma Soleno en Gubernia Deputatejo.

1 Malfermasaluto de Loka Kongr. Komitato; 2 Elekto de la Prezidanto; 3 Saluto de l'Prezid.; 4 Saluto de lokaj reprezentantoj; 5 ĥoro de La Espero; 6 Salut-telegramoj legataj.

Je la 15-a h.: Ĝenerala Kunveno de Japana Esperanto-Instituto.

1 Saluto de la prezid., de la kunveno; 2 Raportoj Laboraj; 3 Raportoj Kasaj; 4 Budĝeto prezentata; 5 Elekto de la Konsilantaro; 6 Proponoj diskutataj.

Je la 19-a h.: Propaganda Kunveno de Paroladoj en Kōkaido.

第十二回日本大會

仙臺市に於て

〔第一日〕 七月二十七日、日曜日

午後〇時半より: 大會發會式、縣會議事堂に於て舉行。

- 1 地方準備委員會の開會の辭
- 2 大會々頭の推選
- 3 大會々頭の挨拶
- 4 各地代表の挨拶
- 5 エスマーロ合唱
- 6 祝電朗讀

午後三時: 日本 エスマラント學會總會、同會

- 1 學會總會議長の挨拶
- 2 事業報告
- 3 會計報告
- 4 豫算協賛
- 5 評議員改選
- 6 提案討議

午後七時より: 講演會、公會堂

〔第二日〕 七月二十八日、月曜日

2. 1924年4月16日仙台講話

エスペラント平和デー記念絵葉書 1 (1924.4.30)



2. 1924年4月16日仙台講話

エスペラント平和デー記念絵葉書 2 (1924.4.30)



2. 1924年4月16日仙台講話

同胞俱樂部發會式記念繪葉書 (1924.6.28)



2. 1924年4月16日仙台講話

(吉野作造とエスペラント)

エスペラントと私

「日本エスペラントの始」と題する項中、「吾が國にてこの新言語の研究と普及とを計れるは明治三十九年ころよりのことなりとす。即ち三十八年の四五月頃、東京帝國大學教授文學博士黑板勝美エスペラントに關する談話を雜誌直言に掲げし時は絶て反應も無かりしが、翌三十九年の五月讀賣新聞に再び同氏の談話筆記を掲ぐるに及び漸く世間の注意を引けり」(二七五頁)とあるが、私は之より先き明治三十六年五月發行の「新人」誌上に「世界普通語エスペラント」と題し可なり詳細の紹介を公にしたことがある。之はその當時愛讀して居つた倫敦「レヴィー・オヴ・レヴィー」誌に出て居たウキリアム・ステッドの論文を譯したものであつた。

いま正確に記憶して居ないが、ステッドはその頃熱心なるエスペランチストであり、三十六年の春頃よりその主宰せる「レヴィー・オヴ・レヴィー」の毎號の誌上にその普及宣傳の爲に一二頁を割いて居つた様に思ふ。二三月頃の號に彼れの詳細なる説明のあつたのに興味を感じ、直に之を譯して「新人」に寄せたのである。「新人」は海老名彈正先生の牧せる本郷教會の青年信徒の宣傳機關で、同先生を主筆とし大學々生たる私もその編輯同人の一人であつたのである。

吉野作造「『明治事物起原』を讀んで」(『新旧時代』1926.12)

2. 1924年4月16日仙台講話

(吉野作造とエスペラント)

吉野作造日記 1919

- 5.31 午後エスペラント普及講演会に出席して一場の演説す 夜燕楽軒に開かれたるその会の招宴に臨む
- 6.1 此日より改めて露西亜語とエスペラント語との復習を始む
- 6.10 朝の中雑用を済ましエスペラントとロシア語の例規の研究をやる
- 7.17 此頃はエスペラントとロシア語とをやっている 我ながら相当に進歩しつゝ ありと思ふ
- 7.21 朝一寸エスペラント講習会に出席す 会館にてやる

2. 1924年4月16日仙台講話

(吉野作造とエスペラント)

Sakuzo Yoshino. New Thought in Japan
“The Japan Advertiser” 1920.4.2

Since last summer some of us have been getting together with the Korean and Chinese students, ...
... some of the Japanese students have begun to feel that to ask these students to adopt our language ... isn't treating them on a basis of equality. ...

So there has been an effort to get a language in which they can converse on an absolutely equal basis. Since September they have been meeting once a week studying Esperanto ...

Esperanto for Koreans.
Out of many illustrations there are one or two which I would like to call to your attention. Since last summer some of us have been getting together with the Korean and Chinese students, talking things over and trying to get a mutual understanding of each other's views. In these little conferences the language used was Japanese, but some of the Japanese students have begun to feel that to ask these students to adopt our language in these conferences isn't treating them on a basis of equality. It is making them adopt our language and putting them on a level below us. So there has been an effort to get a language in which they can converse on an absolutely equal basis. Since September they have been meeting once a week studying Esperanto in order that they might have a common language in which to converse with absolutely equal freedom. It simply shows the new atmosphere.

3. 柳田のエスぺラント活動

同じうそをつくなら美しくつきたいといふやうな人とも若干は此大事業にまじりをり候 日本の人ハ多くはそれさへも出来不申 欧羅巴人は依然として日本のことは何も知不申候 エスぺラントの運動を起すの必要あるかと存申候 秋田君とでも相談し君も是非書けるやうになり置かれんことをのぞミ申候

1921年9月18日づけ佐々木喜善宛て葉書

3. 柳田のエスぺラント活動

佐々木喜善 (1886~1933)



秋田雨雀 (1883~1962)



3. 柳田のエスペラント活動

RO 1921.11

藤沢親雄の報告

...新渡戸博士の上記報告の概要は之を翻譯して間もなく御送りします。

次に當地ジュネーヴに聯盟事務のため滞在せる多数日本人は今更ながらエスペラントの必要を痛感してゐます。それで近々に前貴族院書記官長柳田國男氏の斡旋で日本帝國議會に對しエスペラント語調査に関する請願書を送るの運びとなりました。多数の有力者が署名してくれる筈です。

之に關聯して先日當地を通つた元貴族員議員船越光之丞男は私の話を聽いて大にエスペラントに同情と尊敬を有つ様になり日本に歸つたら大にエスペラント運動を促進せしめると約束されました.....。

3. 柳田のエスペラント活動

東京朝日新聞 1922.1.21

国際語中教習の

請願を議會に提出

國際會議の不便から

全國に普及宣傳

日本人は外國語を學ぶ爲め學生の
 弊から甚大な精力を消費し又日本
 の國字の孤立的な爲め日本の文化
 を外國に紹介することが困難なこ
 とは刻下の

重大な 問題で國際會議

等では常に此不便を痛感するが昨
 年瑞西ゼネバに開催された第二回
 國際聯盟會議にも在留日本人間に
 エスペラント語に就て密々協議中
 であつた矢先、南阿代表ロバート
 セシル卿はエスペラント語に関
 する議案を提出した、其の趣旨は
 諸國の學校でエスペラント語を教
 習さすべく次回總會迄に調査の結
 果を報告すること、云ふのである
 日本側からは安達茶一郎氏が署名
 し、協議の上滿場一致

通過し

た爲め在留日本
 人は大いに贊成し木内重四郎柳田
 國男佐三晋氏等二十餘名が署名
 して議會に請願書を提出する運び
 となつた日本エスペラント學會委
 員の敏達技師小坂雅二氏は語る
 『請願書は四五日前に原素六氏の
 紹介で議會に提出しました、政府
 はエスペラント語に關し調査を
 始めよと云ふ趣旨ですが、此の請
 願書はゼネバで作成した爲め、規
 定の方法の美濃紙に書く事が出来
 ず、議會では

異式と

云ふ點で不受理
 になるかも知れませんが、然しエス
 ペラント語の採用は實に日本文化
 のみならず世界文化に對して偉大
 な貢献を爲すので、此の國際聯盟
 の通過に努力すると共に、全力を

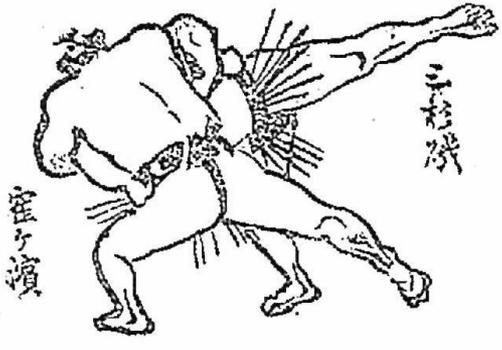
盡して日本全國にエスペラント語
 の宣傳を開始しやうと思ひます』

自動機の研究

陸軍技術本部から研究員が出發し
 て来る二十九日から三四日の間弘
 前線基地に於て自動機の實地試験

大相撲の八日

- | | |
|------------------|---------|
| 能代湯 白岩 | 中入後 |
| 阿久津川高ノ山 | 錦朝見富士 |
| 太刀光 光 風 | 常陸島 藤ノ川 |
| 阿蘇ヶ嶽及ノ浦 | 琴ヶ浦 伊吹山 |
| 若常陸小牛田山 | 福柳 陸奥ノ山 |
| 鶴ヶ濱 三杉殿 | 司天龍 鞍ヶ嶽 |
| 大ノ里 濱額川 | 大門岩 矢野山 |
| 常ノ花 若葉山 | 千葉ヶ崎南 附 |
| 栃木山 紅薙川 | 源氏山 東 雲 |
| 阿久津川に高ノ山は右四ツ高の | |
| 寄るのを阿久津廻りながら小手技 | |
| を打つて勝つ(二秒)▲太刀光に光 | |
| 風は苦て抑合ひ突き落して太刀の | |
| 勝(七秒)▲三杉殿に鶴ヶ濱は立上 | |
| り三杉イナして右四となり三杉上 | |



3. 柳田のエスペラント活動

RO 1922.3

Petskribo Akceptita ĈE JAPANA PARLAMENTO

La petskribo prezentita al la Parlamento, ke oni komencu esploron pri la enkonduko de Esp. en lernejoj, estis akceptita ĉe la Malsupra Domo, la 15-an de Feb., sub la klarigo de S-ro S. Marujama, deputo.

Ĉe la Supra Domo ĝi ankoraŭ ne venas en la tagordon, sed la circumstancoj antaŭdiras ĝian akcepton; kredeble Princo Niĝo, direktoro de la Komisiono pri Petoj estos ĝia klariganto.

La sukceson oni devas danki al S-roj K. Janagida kaj M. Ga.

エスペラントに関する請願 衆議院にて採擇

(上院は未だ議に上らず)

前號に報道しました帝國議會の兩院へ提出した請願、諸學校に於ける國際語エスペラント教授に關して調査を行ふの件は去る二月十五日衆議院に於て議員丸山嵯峨一耶氏が説明の勞をさられて、目出度採擇されました。

貴族院の方は未だ審議には上らぬ相ですが、上れば或は請願委員長二條公が自ら説明の任に當られることになるかも知れぬと云ふことです。兎に角此等の狀況から見ても勿論貴族院では採擇になることであると思はれます。

本件の成效は全く發案者たる柳田法學士及び始終各方面に奔走して下さつた何法學士に感謝せねばなりません。

3. 柳田のエスペラント活動

「大正十一年日記」1922年

- 1月5日 エスペラントの小阪君[ママ]来 [小坂狷二 おさか・けんじ 写真上]
- 1月7日 鉄道院に行き、小阪にあふ
- 1月8日 ニトベさんのエスペラント報文をよみ了る
- 1月9日 小阪君来 午後何盛三君来、アパナ[ママ] エスペラント セルボのことを相談 [が・もりぞう 写真下]
- 1月12日 日本倶楽部小村広田の二君にエスペラントのことをたのむ
- 1月14日 …何盛三君同上[i.e. 来]
- 1月20日 何君より手紙、返事す
- 1月23日 午後外務省にゆく 広田君にあふ 何君も来合されエスペラントセルボのことをたのむ
- 1月25日 エスペラントの会 学士会 夜エスペラントの会、久しぶりに小野俊一君にあふ
- 1月30日 四方堂にてエスペラントの本をかふ
- 2月13日 かへりに青年館にてエスペラント会員に話
- 4月10日 東宮御所に参り国際連盟の話申上
- 4月11日 何盛三君来
- 4月14日 外務省情報部にてエスペラントの話をする
- 4月22日 東京講話会、工業クラブ 小阪君のエスペラントの話あり



3. 柳田のエスペラント活動

1922年1月25日、学士会館での柳田
帰朝歓迎会の報告記事

夕食会参加50人以上
国際連盟での活動と議会への請願に
関する話の聴講者80名

RO 1922.2

ENLANDA KRONIKO

(内地報道)

◎TOKIO.—En Seikei Liceo S-ro E. Asai instruas Esperanton al la lernantoj, dufoje ĉiusemajne.—La 25-an de Jan. oni aranĝis en Gukuŝikai Klubo festenon por bonvenigi S-ran Kunio Janagida, kiu revenis el Genevo kaj kiu multe klopodis pri la petskribo prezentitaj al la parlamento. La vespermanĝon partoprenis pli ol 50 personoj. Post la manĝo S-ro Janagida parolis pri liaj klopodoj ĉe la Ligo de Nacioj kaj pri la petskribo al la parlamento, antaŭ 80 membroj.—En 3-a Liceo

3. 柳田のエスペラント活動

イギリス皇太子エドワード(のち「王冠を賭けた恋」で退位するエドワード8世)の訪日時の各国外交官謁見の際、摂政宮(のちの昭和天皇)がフィンランド公使ラムステットに日本での講演について質問した。ラムステットが講演ではエスペラントで話すと答えたのに対して、摂政は「エスペラントでなさいますのですか。エスペラントと云う言葉はたいそうやさしい語だそうでございますね」

RO 1922.5

LA PRINCO REGENTO PRI ESPERANTO

La Japana Kortego, okaze de la vizito de la princo de Kimrujo, akceptis regnajn senditojn. Nia fervora samideano, D-ro G. J. Ramsstedt, diplomata komisiito de Finnlando, sin ankaŭ prezentis, kaj kiam li alpaŝis antaŭ Lian Kronprinca Moŝton la Regenton, la princo, kiu scias, ke la d-ro parolas japane, salutis lin japane kaj demandis:

—Kie vi pasigis tiun ĉi vintron? ĉu vi vojaĝis?

—Jes, via princa moŝto, respondis la diplomato. Mi veturis en Kanaŝaŭa'n.

—Pro kio vi tien iris?

—Por fari tie paroladon pri nia Finnlando.

—En kia lingvo vi parolas tiam okaze? Ĉu angle?

—Ne, via moŝto, en Esperanto.

—Ĉu en Esperanto? Mi estas informita, ke Esperanto estas tre facila lingvo, ĉu jes?

Ne miru, ke Lia Kronprinca Moŝto konis nian karan lingvon. Jus antaŭ kelkaj tagoj, nia entuziasma propagandisto S-ro K. Janagida, fariis antaŭ li paroladon pri la Ligo de Nacioj, kaj li kompreneble interalie tuŝis ankaŭ la lingvon internacian.

攝政の宮殿下

エスペラントに就て語らせ給ふ

ウェールズ親王(英國皇太子)殿下の御來遊に當つて、我が皇室に於かせられては外國の諸使節を御引見遊ばされた。我が熱心なる同志たるフギンランド國代理公使ケスターフ、ジョン、ラムステッド博士も參候したが、博士が皇太子攝政の宮殿下の御前に罷り出たが、殿下には博士が日本語に堪能であること御承知であること故、殿下には日本語で博士に對して御挨拶の言葉を賜ひ且つ次の如く問はせ給ふた:

『此の冬は何處で過されましたか。御旅行をなさいましたか』

『はい、殿下。金澤市へ參りましてございます』と公使は御答へ申しあげられました。

『金澤へ何をしに行かれたの』

『私の國のフギンランドの講演をいたしに參つたのでございます』

『そんな場合には何語でお話しになりますか。英語でなさいますのですか』

『いいえ、エスペラントでいたします』

『エスペラントでなさいますのですか。エスペラントと云ふ言葉はたいそうやさしい語だそうでございますね』

我が皇太子殿下が我が愛するエスペラント語を識つて居らせられるさは驚くには及ばぬのである。丁度數日前、我が熱心なき宣傳者柳田國男氏が殿下の御前で國際聯盟のことに就て御講話を申し上げたのであるが、勿論氏は他の事と共に國際語エスペラントの事にも言及されたこと云ふことである。

3. 柳田のエスペラント活動

RO 1922.5 「我が熱心なる宣伝者柳田國男氏」

我が皇太子殿下が我が愛するエスペラント語を識つて居らせられるさは驚くには及ばぬのである。丁度數日前、我が熱心なる宣伝者柳田國男氏が殿下の御前で國際聯盟のことに就て御講話を申し上げたのであるが、勿論氏は他の事と共に國際語エスペラントの事にも言及されたこと云ふことである。

3. 柳田のエスペラント活動

エスペラント学習

「大正十一年日記」1922年

5月7日 2度目の渡欧のため東京発

5月15日 エスペラントの稽古 ...香港へ二三二哩

5月20日 エスペラントを勉強す

6月2日 狂言記をよむ、エスペラントも

6月5日 ザメンホフ伝をよむ

6月12日 スエズ着 6月13日 ポートサイド入港

3. 柳田のエスペラント活動

「瑞西日記」1922年

- 7月7日 成城学校の小原君にエスペラントの論文を郵送す。
- 8月30日 ...プリバ博士に逢ふ
- 9月30日 プリバ博士より電話
- 10月2日 夜プリバ博士を訪ふ。エスペラントのことに就いて相談。
- 10月20日 藤井君のエスペラントの稽古を傍聴す
- 10月27日 エスペラントの会を家にて開く ジョルジアの代表といふ人も来る。自分は沖縄のことを話す。
- 11月6日 けふよりエスペラントの練習を始める。マダムウマンスキーといふ老女が来る。オデッサからの亡命客。
- 11月21日 ウエアの書記ヤコブ君から手紙。



3. 柳田のエスペラント活動

「瑞西日記」1922年 続き

- 11月23日 ステロの会合に行く、プリバのエスペラント演説を聴く。
- 11月24日 帰りにウエアの事務所に行く。
- 12月1日 ブーギエー女史の家のエスペラントの会、藤沢君の話あり。
- 12月6日 荒井農相にエスペラントの事につき手紙を書く。
- 12月7日 日本の商業会議所へ、ベネチヤのエスペラント会議の案内状を取次ぐ。...ステロの集会に行く。
- 12月16日 ザメンホフの誕辰記念会に出席。いろ／＼の人とあふ。エスペラントで話を始めたがうまく行かず。夜遅く帰る。
- 12月30日 ウマンスキー刀自夕食に来る。けふでエスペラントの稽古を終わる。伯林に行くといふから本を買う金二十フランを預ける。

3. 柳田のエスペラント活動

1922年11月8日づけ佐々木喜善宛て葉書

... エスペラントももう四五日前から始めて
見ました いゝ字引が手に入ったら江刺話の
二三節を訳して見やうとおもつてゐます ...

3. 柳田のエスペラント活動

1922年12月9日づけ佐々木喜善宛て封書

エスペラントのザメンホフ誕生記念日も此十五日です、十六日の土曜日に集会があります こゝには三百人ほど居ります 私が入つてゐる、ステロ(星)といふのが中心です、... ステロの会員には貧乏な人が多く、多くは又婦人です。私の先生はシニヨリノウマンスキ、オデッサ生れの婦人です フランス語と両方の教授で生活して来た人です、年ハ私くらゐで文章は中と上手です

3. 柳田のエスペラント活動

1923年1月7日づけ佐々木喜善宛て封書

エスペラントで物がかけるやうに早く御なりなさい、単に文法のミならず此語に於てハ「簡単」、「明瞭」且つ「よい響」といふことを非常に重ずるやうです 重ずるといふよりも之を規則にしてあるやうです 私の尤も敬服してゐる文章ハジュネブの若い学者「プリベ」[ママ]といふ人のザメンホフ伝です 日本で手に入らぬやうなら今に送つてあげまじやう 私は「エスペラント」の方から日本の文章道をも改良し得るとさへおもつてゐます

3. 柳田のエスペラント活動

RO 1923.7

Cf. 1923年4月3日づけ佐々木喜善宛て葉書

ヴェネチヤのエスペラントの会を傍聴にきました。
遠い小さい国との人と話してみます 伯林の書店
が出張してゐましたから三四種の本を送らせませ
不用になつたら皆同志者に分けてやつて下さい

Cf. 田中正明編『柳田國男の絵葉書
家族にあてた二七〇通』昌文社, 2005.

商業共通語に関する

國際商業遊覽業會議

INTERNACIA KOMERCA KAJ
TURISTA KONFERENCO

Pri komuna komerca lingvo

La 2-5. aprilo, en Venezia

去る四月二日より五日迄 伊太利のヴェネツィア市に開かれた國際商業會議は 昨秋ツェネーヴで開かれた各學校に於ける エスペラント教授に関する『國際教育者會議』にも益した重要な會議であつた。參加國二十三、參加團體二百九で、官省 8、商業會議所 87、定期市 21、銀行業、工業、職業、貿易業組合 52、商業學院 9、遊覽及 外人案内業 30、市廳 2 が代表せられた。

此の會議に當つて國際聯盟の柳田國男氏、UEA のブリザー博士等は同地に出張して大に劃策に力められた。

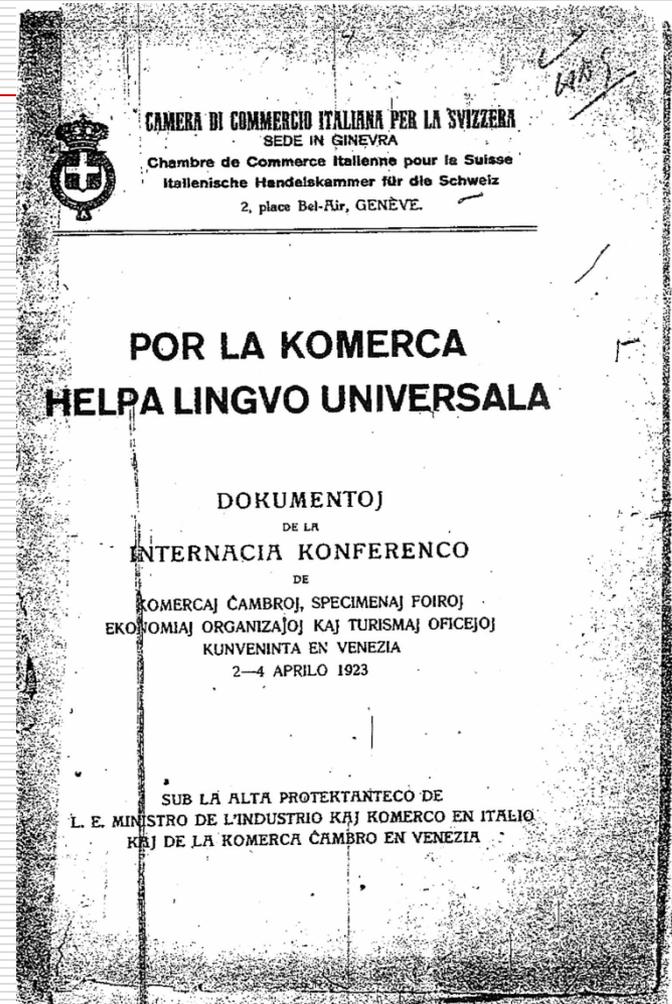
3. 柳田のエスペラント活動

1923年6月16日づけ佐々木喜善宛て封書

写真を取るのが大儀だから之をあげます 宅にある外には之が一枚しか無いのです。四月の四日にヴェネチヤでうつしました 場所は世界で尤もうつくしいサンマルコ大寺の門前で仲間は皆エスペランチストです 右の大きいのがチェコスロバキヤの人口マダ他の二青年はハンガリヤ人、二人の姉妹は此町の娘です。エスペラント大会の特志案内役でした 今になつては夢のやうな記念です

3. 柳田のエスペラント活動

*Por la komerca helpa lingvo internacia
Dokumentoj de la internacia konferenco
de komercaj ĉambroj, specimenaj foiroj
Ekonomiaj organizaĵoj kaj turismaj
Oficejoj kunveninta en Venezia 2-4
Aprilo 1923
44pp.*



3. 柳田のエスペラント活動

Esperanto (U.E.A) 1923.7

Cf. 『年譜』1923.5.24

エスペラントの会で日本の話をする。



3. 柳田のエスぺラント活動

RO 1926.10

第14回日本エスぺラント大会

9.24-26 於東京市青山 日本青年館

...次いで柳田國男氏登壇議長就任の挨拶をせられ議長席につかる。...こゝで柳田名議長はこれらをうまくさばいて次のやうな決議をすることを満場にとうて満場一致で可決して紛糾した問題は解決した。

19時過ぎつと食卓の用意ができたので一同着席食事が始まり杯の数を重ねるに随つてエスぺラントの雰囲気は濃密の度をましてくる。...次いで柳田國男氏が立つて日本の同志の大同団結を慫慂された。

第十四回日本エス大会寫眞畫報



4. 柳田をとりまくエスペランティストたち

守随一「陸前気仙郡の村組織と磯の利用」
柳田國男編『海村調査報告（第一回）』
民間伝承の会, 1938

数回同地方を襲った大海嘯の損害と、
それによる変化を考慮に入れなければ
ならないが、...

採集手帖：沿海地方用 4 宮城県本吉郡大島村
／ 岩手県気仙郡綾里・越喜来・吉浜村
ページ102 枚 サイズ16cm
採集日：昭和12.7.23～8.23 著者自筆採集記録
成城大学 民俗学研究所柳田文庫蔵

陸前気仙郡の村組織と磯の利用

守 随 一

岩手県気仙郡の沿海諸村を歴訪して甚だ意外に思ったことは、海の労働に於てモヤヒ的或はユヒ的な労働組織の残存を餘り見ることが出来なくて、且那或は船主を中心とし數人或は數十人のカコを擁する鯉船や、潮主を中心とする大網とよぶ定置漁業のみが旺んであり、しかもそれが時代の流れに乗り切れずに、殊に鯉船等は昔の思ひ出話になりつゝ村が寂れてゐる事であつた。數回同地方を襲つた大海嘯の損害と、それによる變化とを考慮に入れなければならないが、それ以上に名子的な社會關係とその崩壊とがその背景をなしてゐるのではないかと想像せられる。漁業の發達経路といふものは果してどの土地に於ても先づ單純な磯の利用に始つて漸次近代的な企業組織に移して行つたのか、或はそれ迄海に背を向けて生活してゐたものが、海の利用に立向つた時始めから既に企業組織が必然的になつてゐた所もあつたのではないかといふ事は一つの疑問である。気仙郡の沿海諸村では寧ろその後者を想像せしめる資料の方が多かつたが、以下主として磯の共同利用と村の組織についての圖書を少し並べて見やうと思ふ。調査地は気仙郡の綾里村・越喜来村・吉濱村及び唐仁村である。

陸前気仙郡の村組織と磯の利用

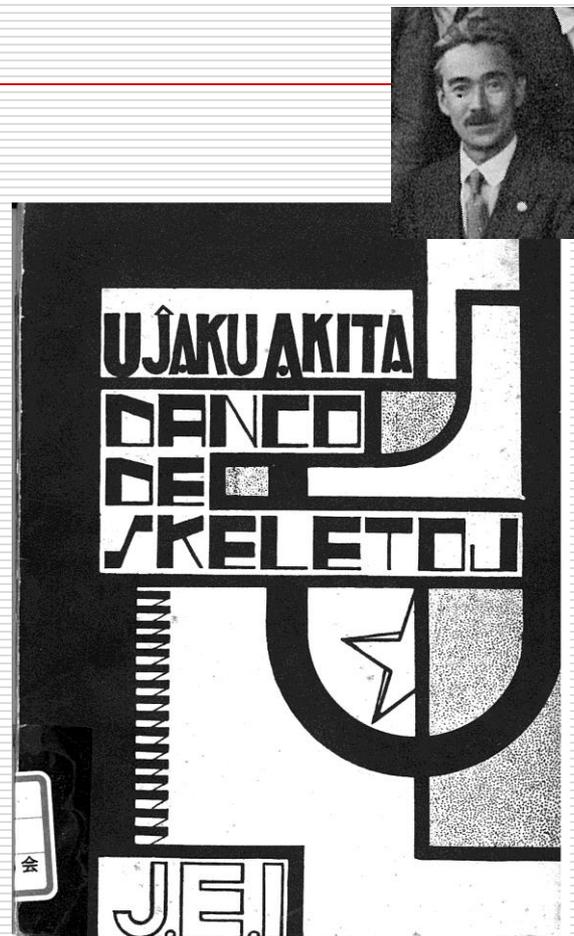
五

4. 柳田をとりまくエスペ란ティストたち

守随一 (しゅずい・はじめ)

1904～1944.1.15

エスペラントは成蹊中学時代に成蹊学園創立者中村春二から指導を受け、浦和高校在学中にエスペラント会を創立して代表として活躍する。秋田雨雀の戯曲「骸骨の舞跳」をエスペラント訳し、他の作品とともに秋田の渡欧記念として1927年に日本エスペラント学会から刊行した。関東大震災後の朝鮮人虐殺への抗議をテーマとするこの作品は1930年に巴金により中国語に重訳される。1926～38年に日本エスペラント学会評議員を務めた。



4. 柳田をとりまくエスペ란ティストたち

無関係:	水野葉舟? (遠野物語) 周作人 (遠野物語) 梅棹忠夫 (民族学)
柳田へ影響?:	伊波普猷 (沖縄学)
柳田へ影響:	藤沢親雄 (国際連盟)
相互に影響?:	小野俊一 (郷土会、動物学) 秋田雨雀 (イプセン会) 吉野作造 (朝日新聞社) ラムステット (民族学) 守随一 比嘉春潮 (南島談話会、木曜会) 島袋盛敏 (南島談話会、成城学園) 井上万寿蔵 (国際観光局) 石黒修 (国語学)
柳田から影響:	佐々木喜善 (遠野物語) 土岐善麿 (朝日新聞社、国文学) 小原国芳 (成城学園)

5. 終わりに

- 柳田國男は、1920年代にエスペラントの実践と宣伝に熱心に関わり、エスペラントを通して言語や国際交流に関わる多くの体験をした。この体験が彼の学問・思想に及ぼした影響については、これまで十分に考察されていない。
- エスペラントを考慮に入れることによって、柳田の人間関係についての理解を一步進めることができるであろう。

追加参考文献

- 石井正己編 『佐々木喜善追悼資料集成』 東京学芸大学, 2009.
- 王京 『一九三〇、四〇年代の日本民俗学と中国』 神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」研究推進会議, 2008.
- 何盛三 「世界に於けるE普及の概況」『改造』1922.8, pp.93-99.
- 佐藤勝一 『帆船のロマン』 イーハトヴ・エスペラント会, 2002.
- 佐藤竜一 『世界の作家宮沢賢治 エスペラントとイーハトーブ』 彩流社, 2004.
- 新国康彦 「職業行政から社会福祉へ」(櫟林社編『櫟林の仲間たち』 櫟林社, 1975)
- 吉野作造 太田雅夫・宮本由美訳 「吉野作造「日本における新思想」(1920)」『桃山学院大学教育研究所研究紀要』6号, 1997, pp.199-218.

エスペラントづいた柳田国男

後藤 斉

ご清聴

ありがとうございました。